

平成25年棚田学会大会シンポジウム

棚田と観光



輪島市白米千枚田は20,461個のLEDが点灯されてから、輪島を訪れる観光客が2割も増えたという。
なお、このLEDの数はギネスブックにも登録された。

写真提供・輪島市

自然の形に逆らわず独特の造形美をつくっている棚田
その美しさを観光に生かしているところがある。
今回のシンポジウムは棚田のある地域や自治体のために企画された。

◀ 広西チワン族自治区・龍脊の棚田（中国）
有名な景勝地・桂林を訪れる観光客が途中寄り道して、この棚田を訪れるという。
棚田以外の観光資源とドッキングしているというところに興味を引かれる。

▼ 雲南省・緑春の棚田（中国）
この棚田を借景として、棚田を見下ろせる上方に、伝統的な外観をもつコテージ風住居が建ち、別荘として棚田の四季を楽しませているという。

撮影・安井一臣

2013年 **8月2日(金)**
14:00スタート(13:50～スライドショー)

会場：**三越劇場**（日本橋三越本店6階）
資料代1,000円(会員無料)

主催：棚田学会 後援：農林水産省 観光庁
協賛：(公財)損保ジャパン環境財団

撮影・安井一臣

シンポジウム 棚田と観光

棚田地域においては、棚田保全活動の一環として、棚田オーナー制度やボランティア活動など都市住民との交流にも力を入れてきています。石川県輪島市の白米千枚田や千葉県鴨川市の大山千枚田など、地域の観光資源として交流人口の増加をはかっており、少数ながら移住者を受け入れるなど成功事例もありますが、全国的には多いとはいえません。一方、中国、韓国、ベトナムなど世界に目を向ければ、棚田を観光に結びつけ、地域を振興し、棚田を保全することに力をそそいでいる事例も見受けられます。

今年、棚田学会は、「棚田と観光」をテーマとしてとりあげ、世界の棚田地域を参考としながら、観光資源としての棚田の可能性について議論します。

シンポジウムは、棚田保全に尽力されている地域の皆さん、自治体・行政関係者にとっても興味ある内容にしてゆきたいと考えています。

報告者プロフィール



高木 宏明 (たかぎ ひろあき) 「中国・雲南省 ベトナム フィリッピンの棚田」
食品コラムニスト

1938年栃木県宇都宮市生れ 東京外国語大学・中国科卒 三井物産及び関係会社で42年間食糧・食品担当 米国・中国など海外各地に16年間駐在。1993年国産米凶作時250万トン緊急輸入体験。退職後「棚田三団体」「良い食材を伝える会」会員。「世界粉食紀行」「食材マンの地球見聞」「私の情緒的棚田物語」など関係紙誌に連載



劉 鶴烈 (You Hagyeol) 「韓国・全羅南道青山島の棚田」
韓国忠南発展研究院責任研究員

1970年韓国忠清北道堤川市生れ 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程修了 東京農工大学大学院博士課程修了 農学博士 韓国農漁村観光学会理事 韓国農漁村遺産学会理事 著書「グローバリゼーション下の東アジアの農業と農村(共著)」(藤原書店)、「農村計画学(共著)」(朝倉書店) など



山路 永司 (やまじ えいじ) 「インドネシア・バリ島の棚田」
東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

1954年愛媛県西条市生れ 東京大学大学院農学系研究科修士課程修了 農学博士 専門は農地工学・農村計画学・国際協力学 日本各地の他、カリフォルニア、オーストラリア、イタリア、インドネシア、タイ、ラオスなどの水田を踏査 昨年よりベトナムの水田で農民とともに安全・安心なコメ作りを展開中 棚田学会理事 農村計画学会会長



山下 博之 (やました ひろゆき) 「日本・石川県輪島市白米千枚田」
石川県輪島市企画課課長

1959年石川県輪島市生れ 芝浦工業大学工学部電子工学科卒 輪島市役所入庁 観光課に配属後、白米千枚田景勝保存のための棚田オーナー制導入、能登半島地震の風評被害払拭のためのキャンドルイベント、太陽光パネルとLEDによるイルミネーションイベントなどの企画を担当



菊池 真純 (きくち ますみ) 「中国・広西チワン自治区龍脊の棚田」
早稲田大学国際教養学部助手

1981年福島県二本松市生れ 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程修了 学術博士 広東培正大学(中国広州市)、青島理工大学(中国青島市) など専任講師を務めながら中国農村の研究に従事 棚田の主要論文「地域の短所を長所に変えた棚田景観の保全活用ー中国龍脊棚田地域を事例に」など



千賀 裕太郎 (せんが ゆうたろう) コーディネーター
東京農工大学名誉教授

1948年北海道札幌市生れ 東京大学農学部卒 農学博士 農水省に入省 農業水利事業、圃場整備事業などを担当 宇都宮大学、東京農工大学で教鞭を執り、千賀まちづくり研究所長として美しいまち・むらづくりを支援 著書「水資源管理と環境保全」(鹿島出版会)、「よみがえれ水辺・里山・田圃」(岩波書店) など 棚田学会会長

申し込み用紙

シンポジウム(資料代1000円 会員無料)に参加します。 懇親会(会費5000円)にも参加します。
(懇親会参加ご希望の方は枠にレ印を付けて下さい。)

お名前

所属

E-mail

今後棚田学会の催し物の御案内をご希望の方は、E-メールアドレスをご記入下さい。
申し込み先…FAX.042-385-1180 E-mail: tanadagattukai@yahoo.co.jp